

ほんとうの「幕末明治日本の産業革命遺産」は

横須賀製鉄所 —ことは着工から150周年—

日本の産業革命遺産はどこか、なぜか、を考えると次々の2つの条件から、小栗上野介が建設を進めた横須賀製鉄所こそ本当の産業革命の地、といえる。

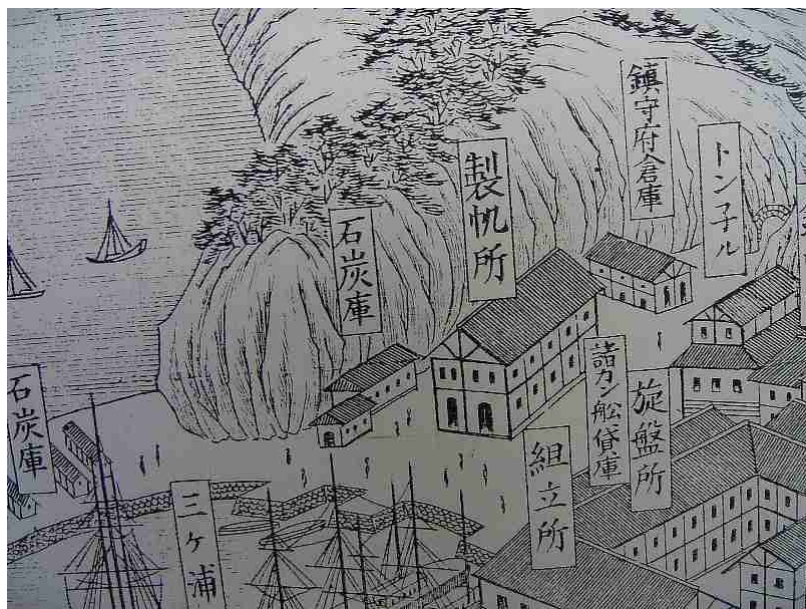
- 1, 蒸気機関を原動力とした総合工場—機能性・生産性
- 2, 慶応年間から稼働していた—早期性

◆**蒸気機関が原動力** 蒸気機関が産業革命をもたらしたことは基本である。1865(慶応元年)に鉄入れ式(着工)した横須賀



▲**煙突** 『横須賀明細一覧図』一部を拡大 煙を吐いている。

◆**総合工場** 当時の造船所は、他に工場がない時代だから何でもそこで造る総合工場だった。例えば、蒸気船でもふだん石炭を節約して帆走していたから帆とロープが必要。製綱所



▲**製帆所** 『横須賀明細一覧図』一部を拡大 (ロープ工場) も製帆所もあった。木造船の時代だから木工所もあって、木材を挽いて船体、船室、階段、手すり、天井、床を作っていた。

◆**人づくり** 外国の機械をまともに操作できる人材育成の学校と

しての餐舎がフランス語と数学・物理で職工を育て、さらに海軍機関学校が上級の幹部技師を育てた。尾島町から出て1907(明治40年)にここを卒業した中島知久平は横須賀海軍工廠で航空機研究と製作に従事して民間飛行機会社の必要性を痛感し、太田市に中島飛行機社を興した。

中島飛行機は横須賀造船所の弟である。

機関学校 ▶

『横須賀明細一覧図』一部を拡大



○富岡製糸場は横須賀造船所の妹

錦絵「富岡製糸場勉強之図」の真ん中に昭憲皇后(明治天皇の后



はるこ美子)が明治6年に見学して詠んだ歌がある。

「いとぐるま おおみよとくもめぐりて 大御代のとみ 富をたすくる 道ひらきつつ」

・「糸車が速く回転して、この国を富ませる道を開いている……」と、横須賀にならって設置された原動力・蒸気機関の力に感嘆した歌で、その上に煙突が描かれている。 富岡製糸場と横須賀造船所の共通点は、蒸気機関を原動力としていたことを確認しておこう。

◀「富岡製糸場勉強之図」東善寺蔵

裏面へ いま政府が進める「明治日本の産業革命遺産—鉄鋼・製鉄、造船、石炭産業—」の23施設のリストです。横須賀製鉄所と比べるとその違い(差)がわかります。↓

政府が推す「明治日本の産業革命遺産―鉄鋼・製鉄、造船、石炭産業―」

2015平成27年5月現在

＊▼表の1，2は村上泰賢が加筆・調査中

	構成施設	所在地	1 原動力	2 建設年
1	萩反射炉 ＊試験炉で非実用	山口県萩市	水力	1855安政2年
2	恵美須ヶ鼻造船所跡			1856安政3年
3	大板山たたら製鉄遺跡		足踏みフィゴ	江戸中期～
4	萩城下町		—	—
5	松下村塾		—	—
6	旧集成館	鹿児島市	水力	1852嘉永5年～
7	寺山炭窯跡		—	1858安政5年
8	関吉の疎水溝（集成館の原動力）		—	1852嘉永5年
9	韮山反射炉	静岡県伊豆の国市	水力	1854安政元年～
10	橋野鉄鉱山・高炉跡	岩手県釜石市	水力	1858安政5年
11	三重津海軍所跡	佐賀市		1858安政5年
12	小菅修船場跡	長崎市	蒸気機関	1868明治元年
13	三菱長崎造船所第三船渠		蒸気機関	1903明治36年
14	三菱長崎造船所ジャイアント・カンチレバークレーン		蒸気機関	1909明治42年
15	三菱長崎造船所旧木型場			1898明治31年
16	三菱長崎造船所占松閣		蒸気機関	1904明治37年
17	高島炭鉱			1868明治4年
18	端島炭鉱			1890明治23年
19	旧グラバー邸		—	1863文久3年
20	三池炭鉱、三池港	福岡県大牟田市、熊本県荒尾市		1901明治34年～ 1908明治41年
21	角西（旧）港	熊本県宇城市		1887明治20年
22	官営八幡製鐵所	北九州市	蒸気機関	1899明治32年
23	遠賀川水源地ポンプ室	福岡県中間市		1910明治43年
参 考 ＊横須賀製鉄所こそ慶応年間から蒸気機関で稼働していたほんとうの「幕末明治日本産業革命の地」				
横須賀製鉄所 （のち造船所）		横須賀市	蒸気機関 1865慶応元年着工～順次稼働～ 1869明治2年フル稼働	
富岡製糸場 《世界遺産》		群馬県富岡市	蒸気機関 1872明治5年	

問題点 ① 産業革命は蒸気機関を原動力とする・・・**水力が原動力**の施設をあげるのは疑問。
② 「4萩城下町」「5松下村塾」「19グラバー邸」は産業革命遺産とは無関係。